



# けいし



<教育目標> 上妻を愛し、夢や希望に向かって、  
たくましく生きる子どもの育成

令和元年6月3日

## 学校は地域社会に浮かんでいる船です

先日の運動会には、多くの方にご参観いただきありがとうございました。

暑い中、子ども達が踊ったり、走ったり、そして高学年になりますと、係活動で自分の仕事をきびきびと行う姿にたくさんの声援をいただき、嬉しく思いました。

運動会での声援は、きっと子ども達の心に届いていると思います。

運動会を通して、また子ども達の心も体も、一回り成長したように思います。



この運動会で驚いたことがあります。

それは、運動会を支えてくださる地域の方々の数の多さです。

閉会式のあいさつの中でもお伝えいたしましたが、PTA役員・理事の方、交通安全協会の方、消防団の方、保護者の方々など、交通整理、運動場の水まき、テントの後片付けなど自主的に行っていただきありがとうございました。

学校の周囲には、早朝から交通安全協会の方々がいるところに立って車の誘導等をしてありますし、PTA役員の方々も、終了後もゴミ拾いを行っていただき、学校をきれいにして帰ってもらいました。運動会終了後、保護者の方が協力しながら、テントや門柱などを短時間に片づけていただきました。

上妻小学校では、このような姿は伝統的で当たり前のことなのでしょうが、今年赴任してきた私にとっては、とても有難く、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

運動会は、紅組 応援団長 石井智也さん、白組 応援団長 鶴縁礼さんをリーダーに見事にまとまり、1年生から6年生までが縦のつながりになって、すばらしい応援合戦を繰り広げてくれました。

いや6年生の子どもたちが、自分たちの運動会を立派に成功させようと、運動会を自分事として考え、自分の役割を責任もって行ってくれました。

このような子どもの姿が見られるのも、上妻校区（地域社会）という海が豊かである、豊穡（ほうじょう）の海だからだと思います。

よい運動会をつくろうとみんなで汗をかくことによって、よりよい地域ができていく。そんな運動会をこれからもみんなで作り上げていきたいと思っています。



### 6月の主な行事

- 4日（火） ブラッシング指導（1年）
- 5日（水） プール掃除（5年）
- 7日（金） 社会科見学（4年）
- 12日（水） 芸術家派遣事業（ピアノ鑑賞）（4年）
- 12日（水）・14日（金） 運動能力テスト（全）
- 13日（木） 巡回公演事業ワークショップ（6年）
- 17日（月）・18日（火） プール開き（全）
- 17日（月） 弁当の日（6年）

- 18日（火） 福岡県学力実態調査（5年）
- 18日（火） 防犯教室（全）
- 24日（月） 弁当の日（5年）
- 24日（月）～28日（金） 教育実習
- 25日（火） 田植え（4年）



## 今年のコミュニティ・スクールがスタートしました

5月14日（火）に、第一回目の「学校運営協議会」（コミュニティ・スクール）を開催しました。

会長に 高山 利文 さん（公民館長代表）

副会長に 谷川 徹治 さん（歴代PTA会長代表）

安永 大樹 さん（PTA会長）

を選出し、その後、①今年度の学校運営や②地域学校協働本部について協議を行いました。

地域学校協働本部というのは、「継志援隊」のことで、地域と学校の橋渡し役であるコーディネーター（加藤美壽壽さん）を配置し、「継志援隊」の方が、学校での教育活動をスムーズに行えるようにしています。



災害（事故）は  
忘れたときにやってくる！

いよいよ、水泳シーズンの到来です。

そんな矢先に、また悲しい水の事故が小郡市でおきました。

5月16日（木）に宝満川付近で遊んでいた小郡市の小学校3年生が、足を滑らせて川に転落し、おぼれて亡くなるという痛ましい事故が起きたのです。

本校でも、6月5日（水）にプール掃除、6月17日（月）・18日（火）にプール開きを行います。非常時に対応するために、八女消防本部の方に来ていただいて心肺蘇生法・AEDやエピペンの使い方についての職員研修を行いました。

7月5日（金）13:00と8日（月）20:00に、本校で1・4年生保護者対象の「救急救命講習会」を行います。子どもたちの命を守るためにも、是非とも受講をお願いします。



ちょっと、いい話

「おつかれさまです。  
手伝いましょうか。」

五月のある日、私が二階の手洗い場の窓をふいていたら、子どもたちの下校時間と重なり、子どもたちが教室から出てきました。

「校長先生、ありがとうございます。」  
「いつもおつかれさまです。」

これも五月のある日、掃除時間に「なの花教室」の前の廊下を雑巾でふいていましたら、四年生の女の子二人近づいてきて、

「校長先生、手伝いましょうか。どこをしたらいいですか？」

「ああ、ありがとうございます。そしたら、ここまでふいたからね。ここからむこうをしてくれなさい。」

四年生の二人は、黙々と、一生懸命に、私がお願した廊下の区域をふき続けました。

「ありがとうございます。おかげで助かったよ。」  
「一日一善です。どういたしまして。」

二人はにっこり笑って立ち去っていきました。

仕事をしている姿にねぎらいの言葉をかけてくれたり、一緒に手伝ってくれたりする子どもの姿が、当たり前に見られるのが本当にうれしい。

そして感謝の言葉を伝えることができるのも、心優しい子どもたちが育っています。

